

様式第4号（第11項関係）

審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和2年度第4回西脇市まちづくり推進審議会
開催日時	令和3年3月8日（月）午後7時00分～9時00分
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンター ホール
出席委員の氏名 又は人数	平田富士男会長、藤原悟副会長、松尾憲子委員、岡井昭憲委員、井上浩代委員、藤井裕子委員、李貫一委員 計7名
欠席委員の氏名 又は人数	藤井琢己委員、清水賢一委員、篠田善健委員、松本美千代委員 計4名
出席職員の職・氏名 又は人数	都市経営部長 筒井研策、まちづくり課長 池田正人、まちづくり課主査 和田裕行、まちづくり課職員 遠藤香里、鳥田朱里 計5名
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	2名
議題又は協議事項	1 あいさつ（会長） 2 報告事項 まちづくり活動補助事業の採択状況の報告 3 協議事項 西脇市自治基本条例に基づく取組の検証について 4 その他 今後の予定について
会議の記録（概要）	
発言者	発言内容等
会長	<b>1 あいさつ（会長）</b> 昨年から審議を進めている検証項目について、引き続き委員の皆さんと進捗をチェックしていきたい。本日は、参画と協働及び地域自治協議会等の検証になるが、市民の皆さんの感覚で忌憚のない意見をいただきたい。
事務局	<b>2 報告事項</b> <b>まちづくり活動補助事業の採択状況の報告（市民提案型まちづくり事業企画書の審査結果について）</b> ・事務局から【資料1】に基づき説明

部 会 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画書の審査では、備品の取扱いについての的確な判断をしていただけたと思う。現時点では、継続性を明確に判断できないので、1年間の活動状況を見たうえで、備品の追加については検討していくことが適当と考える。</li> </ul>
事 務 局 委 員 事 務 局 委 員 会 長 委 員 事 務 局 会 長 事 務 局 会 長 委 員 会 長 委 員	<p><b>3 協議事項</b></p> <p><b>西脇市自治基本条例に基づく取組の検証について</b></p> <p><b>ア 項目2「参画と協働」について【資料3（P1～12）】に基づき説明</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パブリックコメント等について、幅広い年齢層から平等に意見は出てきているのか。例えば、アンケートには年齢を記入する欄はあるのか。</li> <li>地区、年代、性別といった基礎的な項目はある。</li> <li>アンケートの回収率で薄い層があるのであれば、そこを太くするための施策を考える等の視点も必要と考える。</li> <li>参画と協働についても、日頃から感心をもっている層と持っていない層がいると考える。後者への対応について検証が必要ということだと理解する。</li> <li>市民アンケートに回答したことがあるが、項目が多くて大変だった。回収率をあげる必要があるのであれば、項目を絞る等の工夫があると答えやすいのではと考える。</li> <li>アンケートの項目数については、多いとの意見もあって、現在は8ページ（4枚）となるべく少ない項目にしている。</li> <li>貴重な意見である。アンケートを実施するとなると、まずは項目の設定や数等について事前にヒアリングしたりする場合があると思うが、そういったことは意識されているのか。</li> <li>回収率は低いのが実態。回答のしやすさ等は日頃から意識はしている。回答数は400以上あれば1つのアンケートとして制度が高いといわれているので、まずは400以上を目標にしている。</li> <li>紙のアンケートに答える層とそうでない層があるため、紙のアンケートの場合、後者の意見を吸い上げられないのでは。</li> <li>アンケートを実施したことがあるが、アンケートの精度によっては結果が大きく変わってしまうこともあるので、アンケートをあまり参考にし過ぎてしまうのも良くないと考える。</li> <li>その感覚は正しい。全市民から均等に回答があれば精度も高いが回答者に偏りがあった場合に、その結果をどう活用するかは慎重に扱う必要がある。</li> <li>まちかどミーティング、アンケート、パブリックコメントとあるが、まちかどミーティングやアンケートであればフィ</li> </ul>



委員	<p>間支援は、地域自治協議会に限らず、市民がまちづくり活動で困ったときにも対応していただける存在であり、大変意義のある存在であると考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民提案型まちづくり事業について、補助金を活用した33団体のうち、市の協働型委託を受けていない団体の現状は把握しているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>1団体は既に解散しており、4つの団体については追跡ができていないが、それ以外の団体は規模を縮小されているところもあるが活動を続けていると把握している。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民提案型まちづくり事業について、1団体につき上限30万円で3回までという基準の根拠は何か。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>金額について明確な根拠はないが、他市町の類似事業との比較では遜色ないと考えている。回数については、以前はファーストステップ事業、チャレンジ事業と細分化していたものを審議会で審議していただき現在の補助制度としている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>パブリックコメントはコメントしても市政に反映されるという印象が薄い。例えば、補助金の採択時にパブリックコメントの手法を用いるのはいかがか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去にも同様の意見をいただいたことがあり、補助金採択時において市民の意見が反映できるような仕組みを検討していきたいと考える。</li> </ul>
事務局	<p><b>イ 項目3「地域自治協議会等」について【資料3（P13～38）】に基づき説明</b></p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域自治協議会、市民公益活動の進捗状況について事務局はどう自己点検しているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域自治協議会については、市内8地区全てで設立されれば組織立上げは完了するが、未完了のため対応中（要拡充）としている。</li> <li>市民公益活動は、ゴールがないと考える。ある程度のレベルの制度設計ができたとしても、市民公益活動は増えたり減ったりもするので絶えず支援策を継続する努力が必要と考える。よって、対応中（要拡充）が適切と考えている。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域自治協議会は市民にとってハードルが高いと考える。知って、関わる・行動を起こすという2段階の最終形が地域自治協議会と考える。参画の第一歩は市民公益活動と考えるが現状を見ると市民提案型まちづくり事業の利用団体数は減っている。その現状を事務局はどう捉えているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民提案型まちづくり事業の制度設立当時は、他に市の補</li> </ul>

<p>会 長</p>	<p>助制度がなかったため、それ以前から思いを持っていた方に多く利用していただいたが、1団体につき3回で補助が終わるので、次々とは利用団体が出てこない状況にある。しかし、そこで中間支援ができたことにより市の補助金に限らず民間の補助金も含め幅広い選択肢から選べるようになっており、そういった現状を細かく把握し、今後報告できるようにしたい。</p>
<p>会 長 委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市の補助金の利用件数だけで評価するのではなく、市民公益活動がどれだけ起こって、どう参画と協働が活発化していったかがポイントだと考える。</li> <li>・ 中間支援者は西脇市の現状をどう捉えるか。</li> <li>・ 相談者にとって市の補助金が合う場合もあれば、事業性が高ければクラウドファンディング等の手法を提案することもある。ただ、市の補助金は比較的申請しやすいので、スタートアップにとっても適していると思う。中間支援として、補助金の申請支援も含め思いをかたちにするための支援をしたいと考えているため、中間支援窓口の存在をもっとPRしていく必要があると感じている。</li> </ul>
<p>委 員 委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間支援窓口に来られる方は何で知って来られるのか。</li> <li>・ 市の紹介や市広報のほか、10年近く兵庫県の生きがいごとサポートセンター事業を実施しているため、そのつながりで西脇市に来られる方もいる。最近は口コミで来られる方もおり、少しずつ増えていると感じる。</li> </ul>
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域自治協議会の設立が進んでいない要因を事務局はどう考えているのか。市内全地区で地域自治協議会が設立されればお互いに切磋琢磨し、よりよいまちづくりにつながると考える。</li> </ul>
<p>事 務 局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区長会をはじめ地域役員から理解が広がることが多いと考えられるため、まずは区長会に説明をしている。そこで地域自治協議会を設立する方向で話が進めば市も設立に向け関わっていくことができる。また、「地区まちづくり計画」策定のタイミングも重要で、近年は計画再編の過程で、コーディネーターからも地域自治協議会の設立に触れてもらうようにしており、そういった地区では比較的設立が進んでいるように考える。</li> </ul>
<p>会 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参画と協働を促進するための施策をどう自己点検しているのか、また、上手くいっていない場合の要因は何なのか、それを踏まえ今後どうしていく必要があると考えているのかを改めて整理し、検証結果にまとめていただきたい。</li> </ul>

事務局	<b>4 その他</b> <b>今後の予定について</b> 令和3年度第1回審議会の日程について
問合せ先	都市経営部まちづくり課